

7th e-ICON 参加レポート

神奈川県附属高等学校 陳 宇熙

1. 初めに

e-ICON 世界大会への参加が決まったのは、第 19 回 web コンテストが終わって間もないころでした。そのとき、僕は e-ICON に参加したら忙しくなるのではないか、しっかりやれるのか、どういったことをやるのか、色々不安になっていました。このレポートを読んでいる人の中にはこれから e-ICON に参加し、不安になっている人もいるでしょう。そんな人のために、僕の e-ICON の体験を通して、e-ICON についてもっと詳しく知ってもらいたと思います。

まず e-ICON についての概要を言いますと、e-ICON は情報科の国際コンテストです。毎年韓国で行われ、毎年具体的なテーマが変わるようです。今年は Android のアプリケーションを製作するというものでした。外国（ここでいうと日本）からの 2 人と韓国の 2 人が組み 1 つのチームとして共同製作しました。

何もかもうまくいったとは言いません。困難がたくさんありました。果たしてどのように事が進んでいったか以下に書いていきます。

2. 時系列

- 3 月 e-ICON 参加決定
- 4 月 僕たち日本から 2 人と韓国 2 人が組むチームが決定
- 5 月 チームブログサイト開設（意見・ファイル交換用のもの）
- 5 月～8 月 事前準備・共同作業
 - 5 月～7 月 アイディア・仕事の配分決定
 - 7 月～8 月 作業進行
- 8 月 17 日 韓国到着・顔合わせ
- 8 月 18 日～21 日 現場作業
- 8 月 23 日 順位決定・発表、閉会式
- 8 月 24 日 帰国

3. 過程と体験と苦労話

A) 事前準備

チームも生まれ、Eメールも交換し、さてどのツールでやり取りするかということで、僕たちは SNS アプリの LINE を選びました。電話番号でアカウントを登録できるこのアプリは、パソコン用のアプリもあり、ファイルのやり取りが便利と判断したのです。

さて、いざ話し始めたところ、韓国側の生徒が日本語を使ってきました。どうやら日本語を学んでいるようなのです。ところが、韓国側の生徒は日本語を習いかけたようで、細かい部分が通じてない様子でした。英語も使いましたが、これもまたあまり通じませんでした。

外国の人とやり取りするので、言語の差異があるのはもちろん、英語も自分と相手の両方がうまいとは限りません。また、離れた場所の間でインターネットを使ってやり取りするので、時差がないといっても返信までに時間がかかりました。顔と顔を向かい合えずコミュニケーションをとる難しさを痛感しました。

結局、僕たちは翻訳機能を使って会話することにしました。

B) 現場作業（韓国での作業）

出発する前、韓国の生徒から「自分のパソコンが WannaCry にかかった」という情報が来ました。そんな状態で果たして上手くできるのか心配になりました。このことが後に痛手となったのかもしれません。

最初の2日間は順調に作業していました。ところが3日目から問題が露見していたのです。4人が作ったアプリのパーツをくっつけるというときに、韓国の生徒が韓国語と英語の翻訳機を見せてきました。なんと、その生徒は英語をまともにしゃべれなかったのです。

さらには、相手の生徒が作るべきはずだったパーツを作ってこなかったのです。おかげでその部分をつくるのに時間がかかり、また4人とも Java が得意でなかったことから、試行錯誤に結構時間を取られました。結局、アプリの機能を削ることになってしまいました。実際に現場で作業する日数が4日間だけというのはつらかったです。

何かプロジェクトを立ち上げるなら、それ相応の能力を自分が持っていなければいけません。能力を持っていなければ、そもそもプロジェクトが進められないし、進められても時間がかかってしまいます。またそれは他人に頼ることとなり、相手に迷惑をかけてしまいます。

C) 食事と旅行

食事はほぼ会場になった大学の食堂でとりました。毎日のように韓国料理を食べましたが、**いずれもおいしかったです**。料理は辛かったですが、本場のキムチを食べることができうれしかったです。しかし、遠く離れた国の料理は口に合わなかったのか、イギリスやオーストラリアのメンバーは、コンビニから**オレオ**を買ってきて食べていました。

8月22日、審査員が審査している間に、釜山に旅行に連れて行ってもらいました。まず行ったのは海東龍宮寺。海のすぐそばに建立され、また寺自体も大きく迫力がありました。寺の入り口から本殿までは小さな店が並んでいました。

昼食の後は自由行動と言う事で、鉄道ファンの僕は、早速釜山都市鉄道（地下鉄）に乗りました。案内はハングルばかりでした。そして釜山駅を観光しました。韓国は、長距離列車乗るとき乗車券は必要ですが改札を通らないのです。その後は昼食場所の近くに帰り、南浦洞歩行街を散歩しました。晴れていたらきれいに見えたでしょうが、あいにくの雨でした。その後土砂降りになり、旅行を切り上げて会場の大学の宿舎に戻りました。

D) 提出

最後の最後まで諦めず頑張り、8月21日22:00の提出期限ぎりぎりに提出しました。提出したものは以下の通りです。

- ・アプリ本体
- ・プロジェクト概要
- ・広告用リーフレット
- ・コマーシャル・ムービー
- ・アプリのスクリーンショット

前回の大会まではプレゼンテーションがあると聞いていたのですが、今回はプレゼンテーションがありませんでした。

確かに何もかもうまくいったというわけではなかったのですが、このコンテストに参加して、**達成感は半端なかったです**。何か一つのことをなしたという体験の喜びを一身に感じました。

順位ではいい成績とは言えず、また未練も残りました。アプリをもう少し発展させたかったのですから。しかし、貴重な体験ができたと感じました。これからこういう体験はするでしょうが、高校生のうちに体験するのは重要だと思います。

4. 終わりに

このコンテストに参加する人の中には、不安を感じている人も多いと思います。確かに e-ICON はほとんどの人にとって未知なる領域です。成績を使って推薦入試を受けようと緊張している人もいるでしょう。しかし、重要なことは経験です。主催者がオリエンテーションで言ったことには、「個人よりチームを、競争より協力を、結果より過程を」とありました。結果はいずれにしろ、こういうことを高校生のうちに経験しておくことも重要と僕は考えます。

年齢や能力関係なく挑戦したい人を e-ICON は温かく迎えます。

5. 写真集

B 現場作業（韓国での作業） に関連して



会場となった大学外観



チームメンバー

C 食事と旅行 に関連して



大学での食事



海東龍宮寺 本殿



地下鉄の駅名標

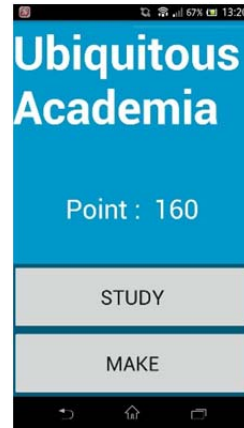


釜山駅 外観

D 提出 に関連して



授賞式



僕たちが作ったアプリのスクリーンショット